

2022年3月期 決算説明資料

富士ダイス株式会社

代表取締役社長 久保井 恒之

アジェンダ

- | | |
|-------------------|------|
| 1. 会社概要 | P.02 |
| 2. 2022年3月期 業績概要 | P.10 |
| 3. 2023年3月期 業績見通し | P.16 |
| 4. 中期経営計画の進捗 | P.20 |
| 5. 株主還元・配当 | P.32 |
| 6. ESGの取り組み | P.34 |
| 7. 参考資料 | P.36 |

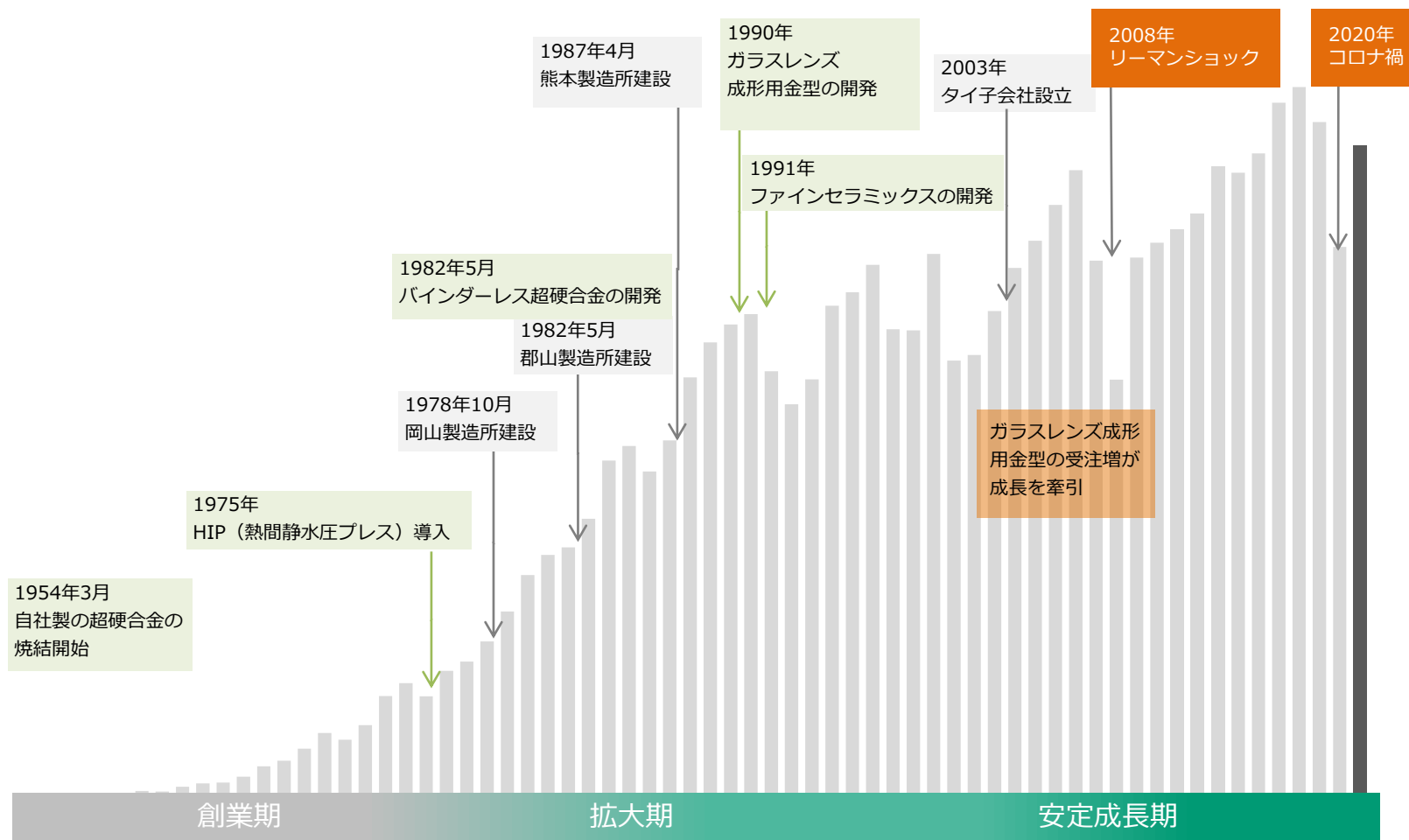
01

会社概要

会社概要（2022年3月現在）

商号	富士ダイス株式会社
所在地	東京都大田区下丸子二丁目17番10号
資本金	164百万円
代表者	代表取締役社長 久保井 恒之
創業	1949年6月
事業目的	超硬合金製の耐摩耗工具・金型の製造販売
従業員数	1,131名（2022年3月期末時点、連結）

主な沿革と売上高推移



(注) 2012年度以降は連結売上高

富士ダイスの企業理念・大切にしている価値観・長期ビジョン

企業理念

- 事業を通じて広く社会に貢献し、幸せな人を育てる
- 人間尊重、人間中心の経営

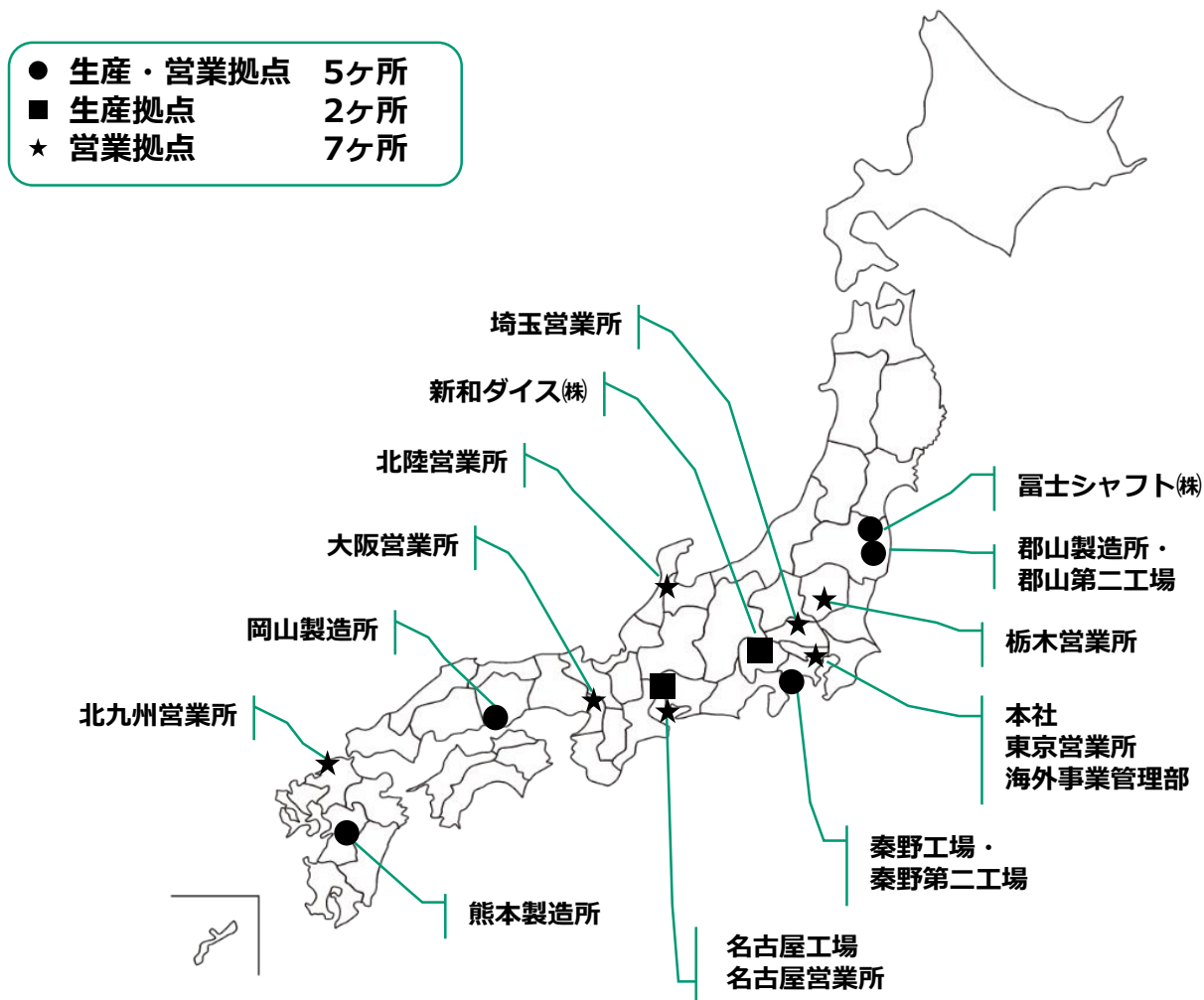
基本的な考え方（私たちが大切にしている価値観）

- 報恩感謝
- 和
- 創造と革新
- 誠実
- 質実剛健

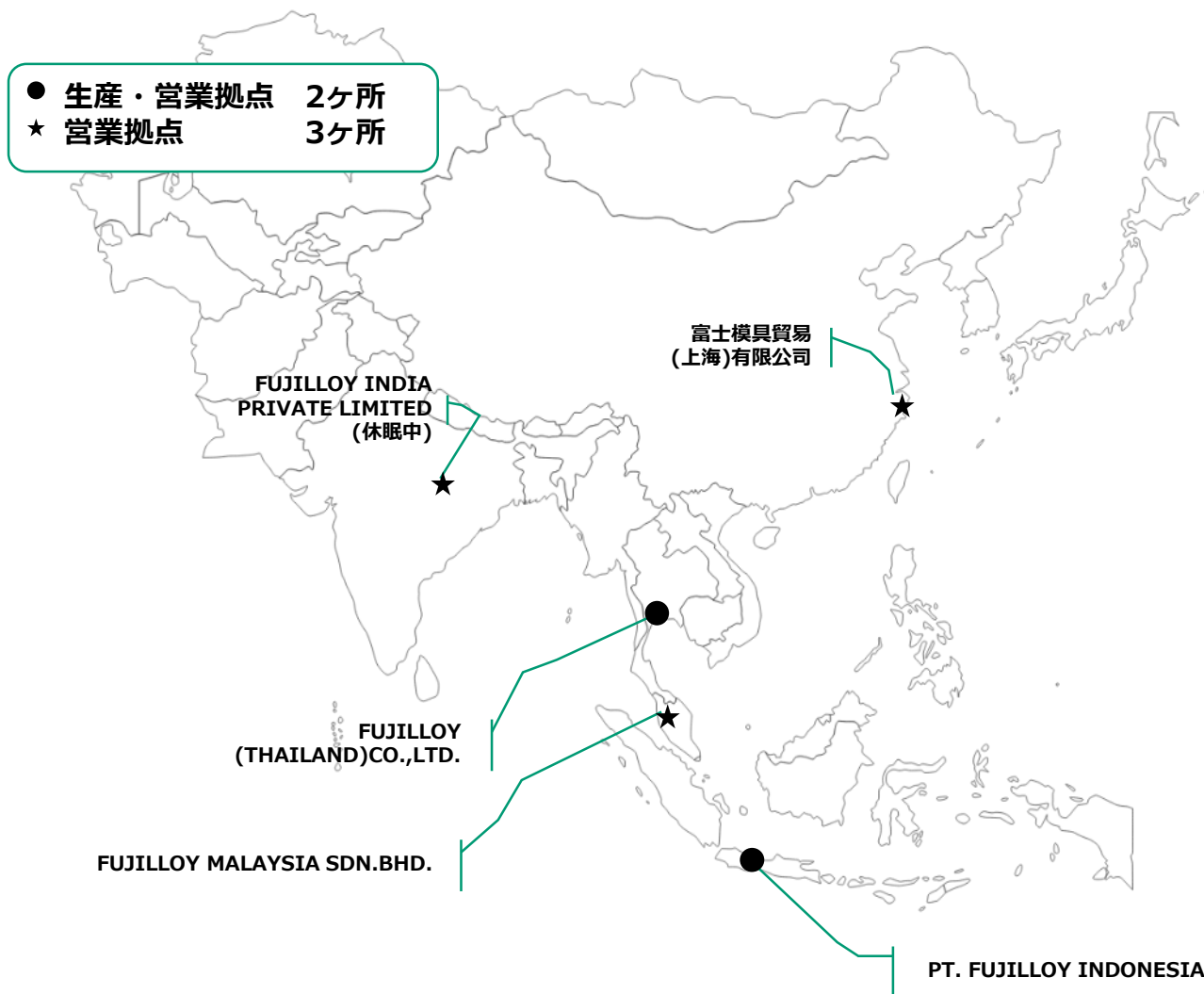
長期ビジョン

1. 世界のものづくり界のリーディングカンパニー
2. 品性ある企業グループ並びに企業人

拠点ネットワーク（国内）（2022年3月現在）



拠点ネットワーク（海外）（2022年3月現在）



当社の特長 ハイライト

超硬耐摩耗工具市場で**トップシェア**

国内超硬耐摩耗工具業界では当社は長期に亘り、トップシェアを堅持
多品種少量の高付加価値製品の販売が主で、販売価格は安定して推移

業界シェア
30%以上

開発力-生産技術力-営業力が競争力の源泉

お客さまの個別ニーズをカスタマイズできる直販体制
幅広い業種との安定かつ多くのお客さまとの取引実績
設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査までの一貫生産体制

取引社数
約3,000社

長期的成長を担う高い**研究開発力（技術力）**

粉末冶金技術を活かし、市場ニーズに応える新材料の開発技術
人手による技術を新鋭設備研究と工法最適化による現行技術との融合

コア技術
・粉末冶金技術
・超精密加工技術

財務基盤：黒字経営を継続し、**高い自己資本比率**を維持

ネットキャッシュ	7,729	百万円
フリーキャッシュフロー	1,541	百万円

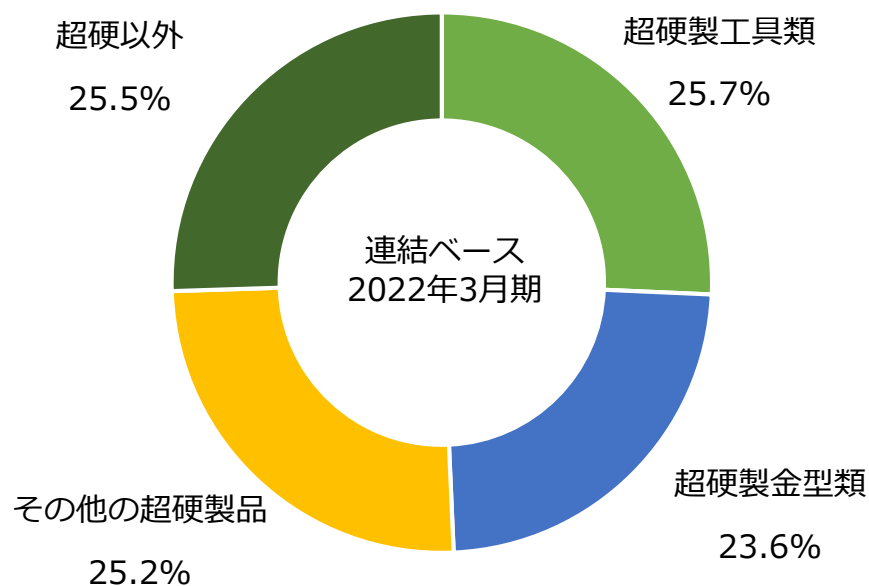
自己資本比率
76.1%
(2022年3月期末)

事業内容

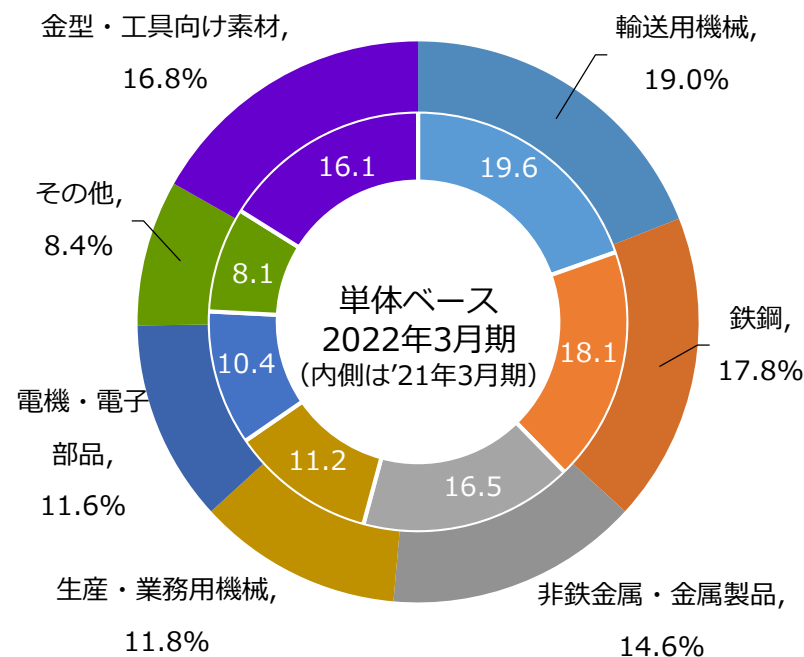
超硬合金製を中心とした工具・金型（耐摩耗工具）製造

幅広い産業分野
における顧客

【製品区分売上構成(%)】



【顧客産業分類区分売上構成(%)】



02

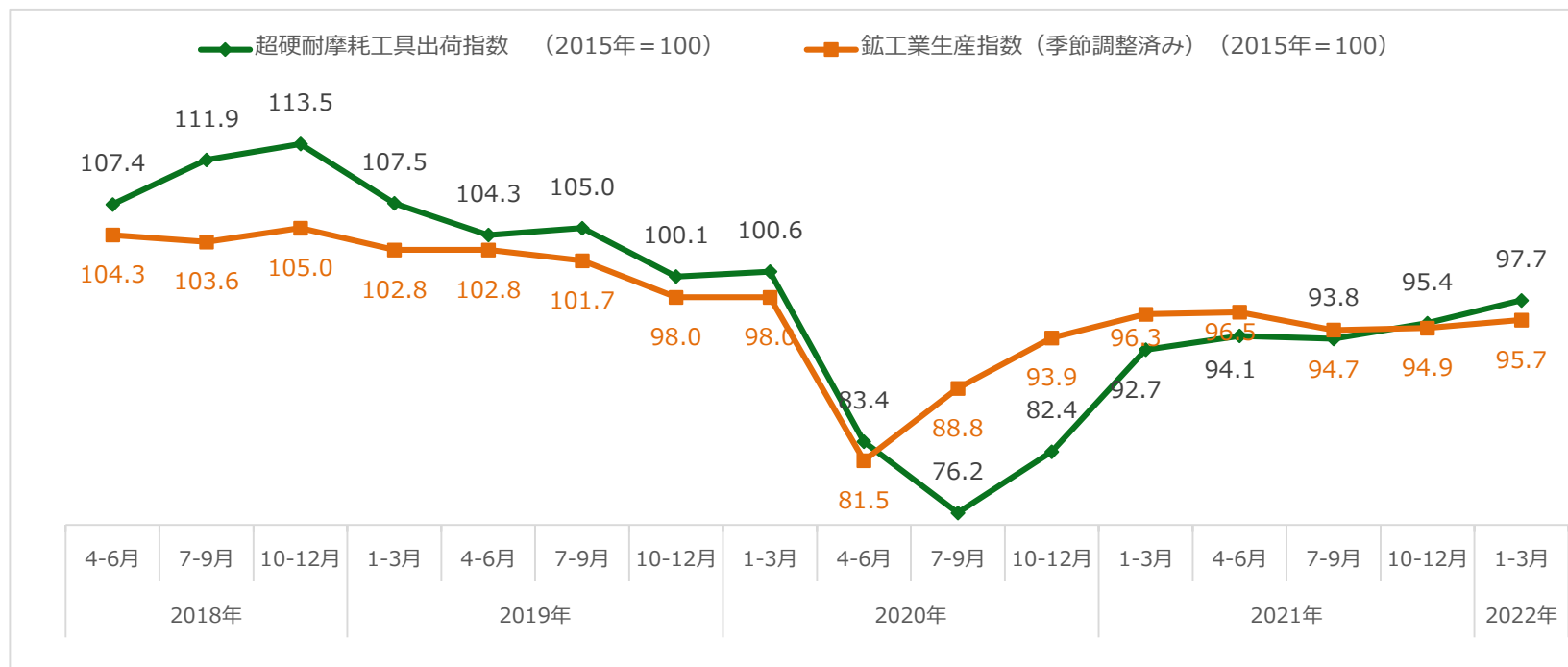
2022年3月期
業績概要

2022年3月期までの事業環境

鉨工業生産指数と超硬耐摩耗工具出荷

- 2020年度と比較すると回復基調にあるが、まだ両指数ともにコロナ禍前の水準には戻っていない

鉨工業生産と超硬耐摩耗工具出荷 指数推移



出所：日本機械工具工業会 『超硬工具統計』
経済産業省 『鉨工業指数』

2022年3月期 ハイライト

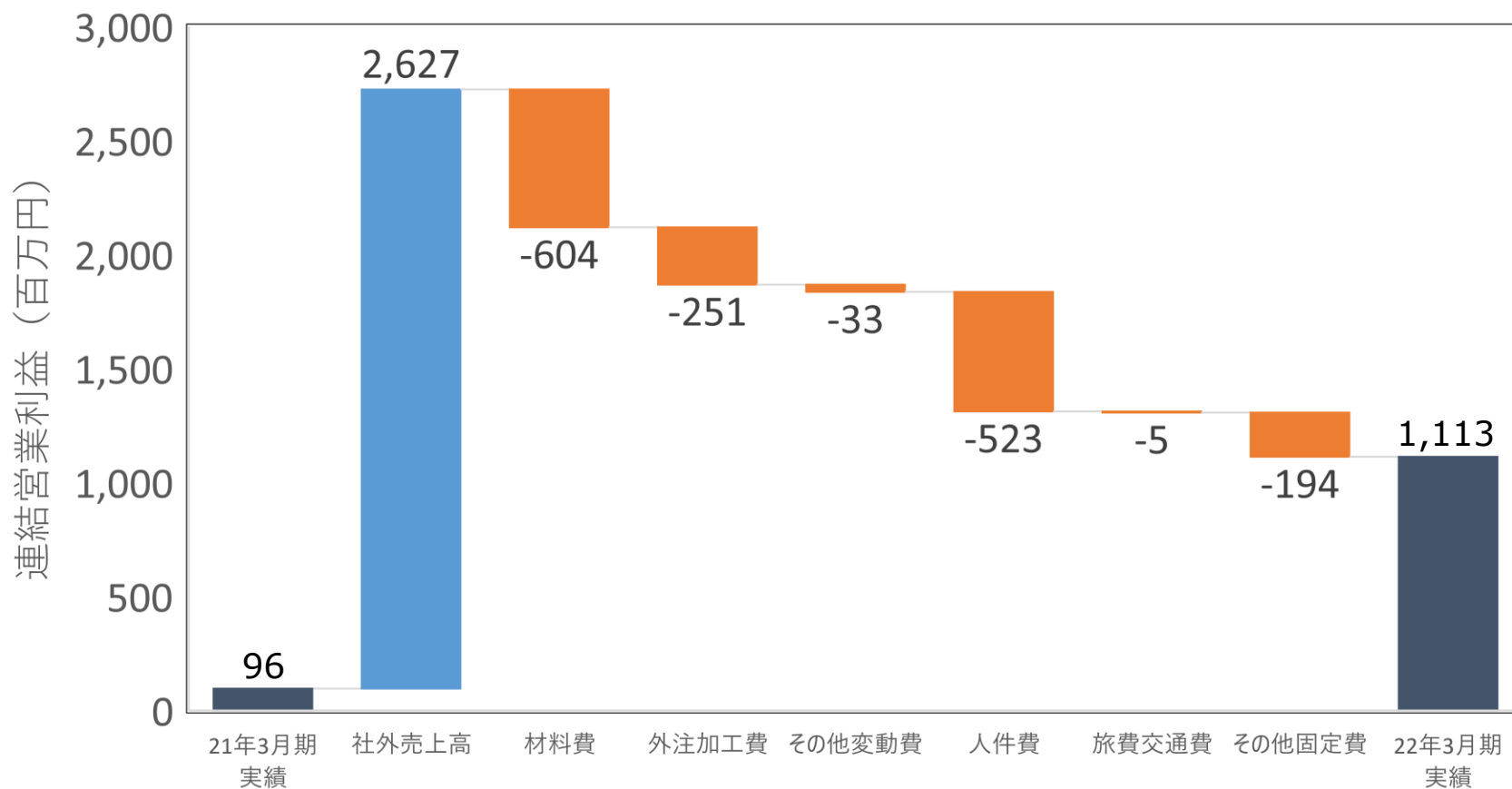
連結売上高 16,874百万円 (前年同期比118.4%)

連結営業利益 1,113百万円 (前年同期 96百万円)

- 連結売上高、連結営業利益ともに前年度通期の業績を大きく上回った
- 冷間フォーミングロール、押出金型、棒鋼・線材用ダイスの販売が堅調に推移
- 半導体需要の拡大が続き、関連する金型・金型素材の販売が好調に推移
- 車載電池用金型、光学素子成型用金型の販売が増加
- モーターコア金型素材、電池用金型素材の販売が増加
- 引抜鋼管、鋼製自動車部品用金型、KF2製混錬工具の販売が堅調に推移

連結営業利益 増減要因（前期比）

営業利益：前期比+10.1億円



連結損益計算書サマリー (前年同期比)

(単位：百万円)

	2021年3月期 累計	2022年3月期 累計	前年同期比
売上高	14,247	16,874	118.4%
売上総利益	2,981	4,341	145.6%
販管費	2,885	3,227	111.8%
営業利益	96	1,113	1154.7%
経常利益	300	1,202	400.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	468	790	168.7%

超硬製工具類	3,926	4,344	110.7%
超硬製金型類	3,404	3,984	117.0%
その他超硬製品	3,468	4,256	122.7%
超硬以外	3,447	4,288	124.4%

※ 下表は製品区分別の売上構成

連結貸借対照表サマリー

(単位：百万円)

	2021年3月期末	2022年3月期末	前期末比増減
流動資産	13,200	15,331	2,131
固定資産	10,533	10,048	▲484
資産合計	23,733	25,380	1,646
流動負債	3,176	4,383	1,207
固定負債	1,717	1,692	▲24
負債合計	4,893	6,076	1,183
純資産合計	18,840	19,303	463
負債・純資産合計	23,733	25,380	1,646

03

2023年3月期 業績見通し

連結業績計画

- 連結売上は増収を計画しているが、連結利益は原料高や物価高騰、地政学リスクの高まり等を想定した業績予想としている

営業利益
11.4億円
(前年度比102.3%)

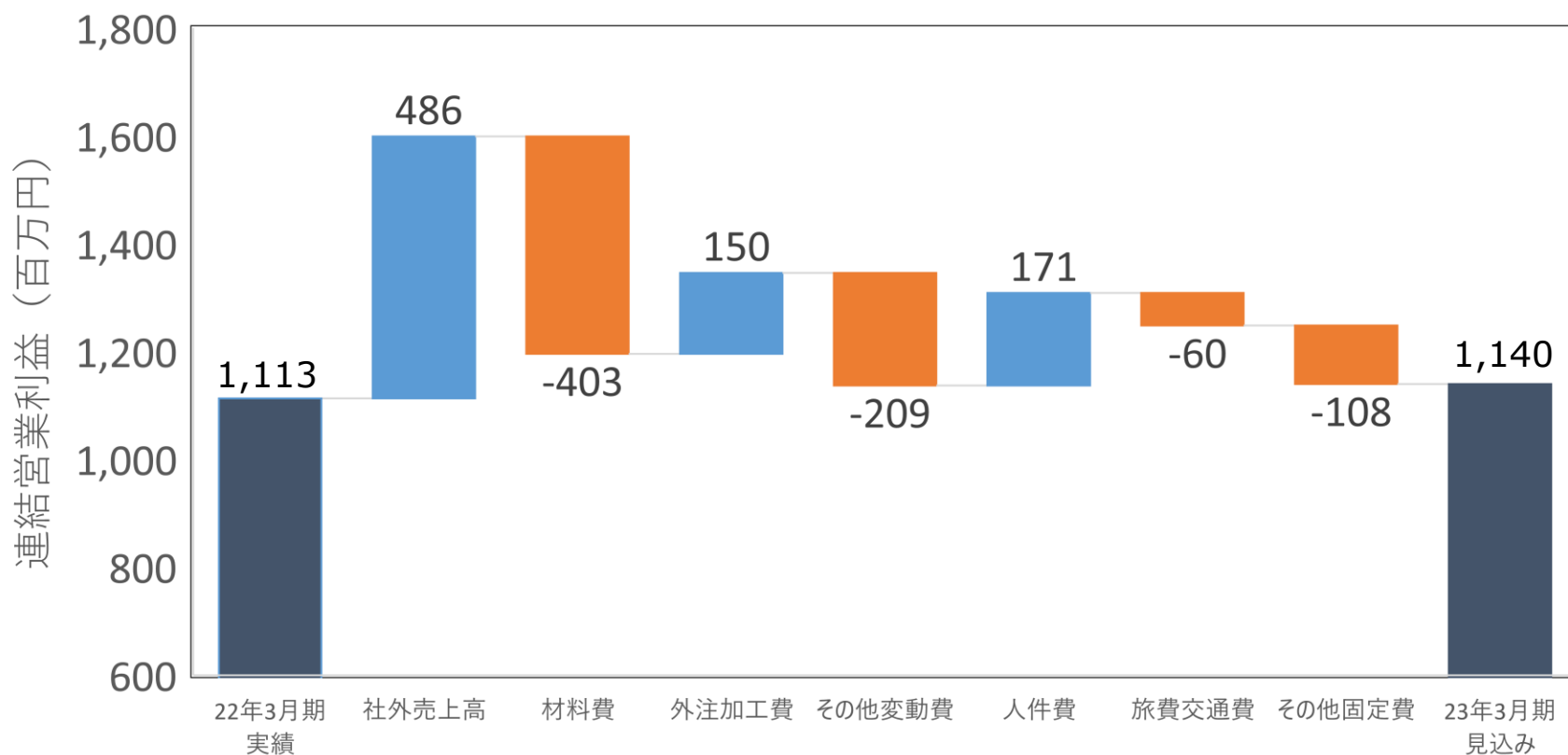
(単位：百万円)

	2022年3月期	2023年3月期 (計画)	前期比
売上高	16,874	17,360	102.9%
営業利益	1,113	1,140	102.3%
経常利益	1,202	1,210	100.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	790	820	103.7%

減価償却費	953	950	99.7%
設備投資額（有形・無形固定資産合計）	454	1,840	404.6%

連結営業利益 増減予想（2023年3月期予想）

営業利益：前期比+27百万円



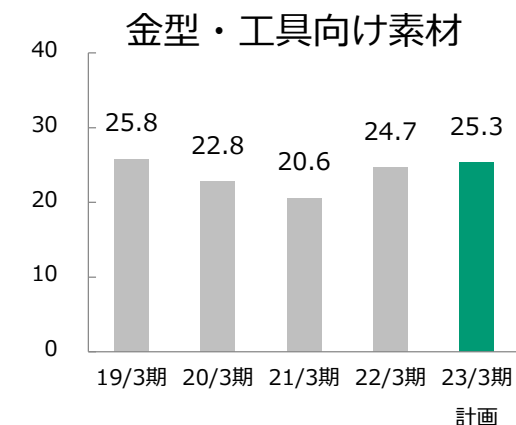
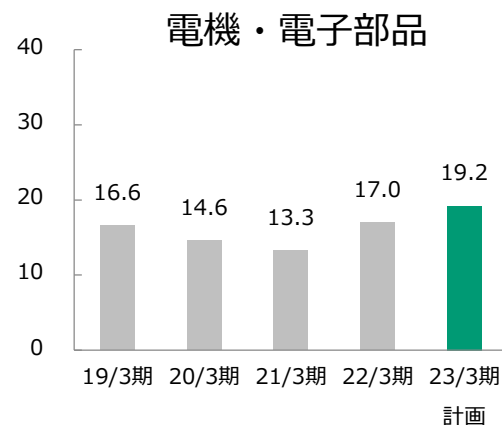
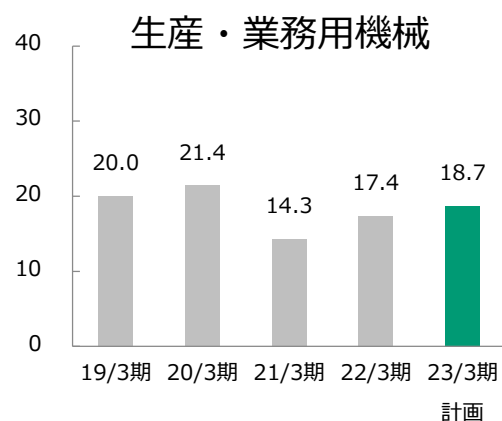
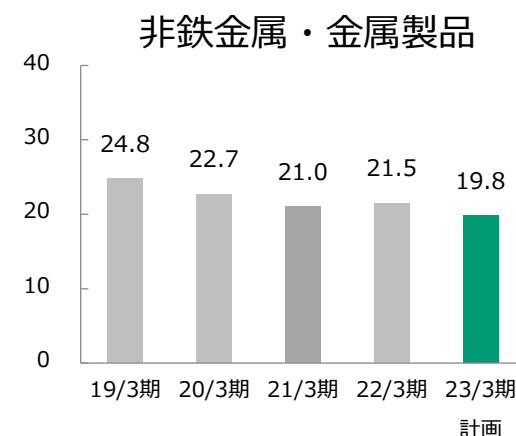
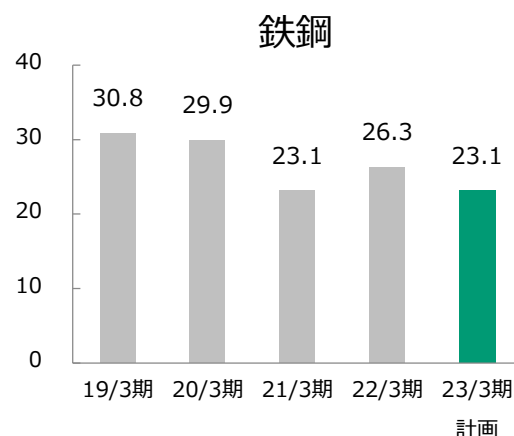
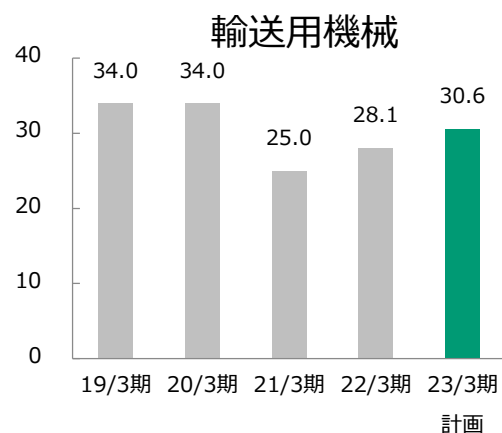
【2023年3期 利益予想の前提条件】

- ①APT(パラタングステン酸アンモニウム) 価格：350ドル/10kg
- ②為替：120円/米ドル

主要産業分類別状況（単体ベース、売上高）業績見通し（2023年3月期）

- 半導体需要拡大の継続に対応し、関連する金型・金型素材の生産体制を強化する
- 自動車の電動化に伴う関連製品の販売や、海外向け金型素材の拡販に注力する

（単位：億円）



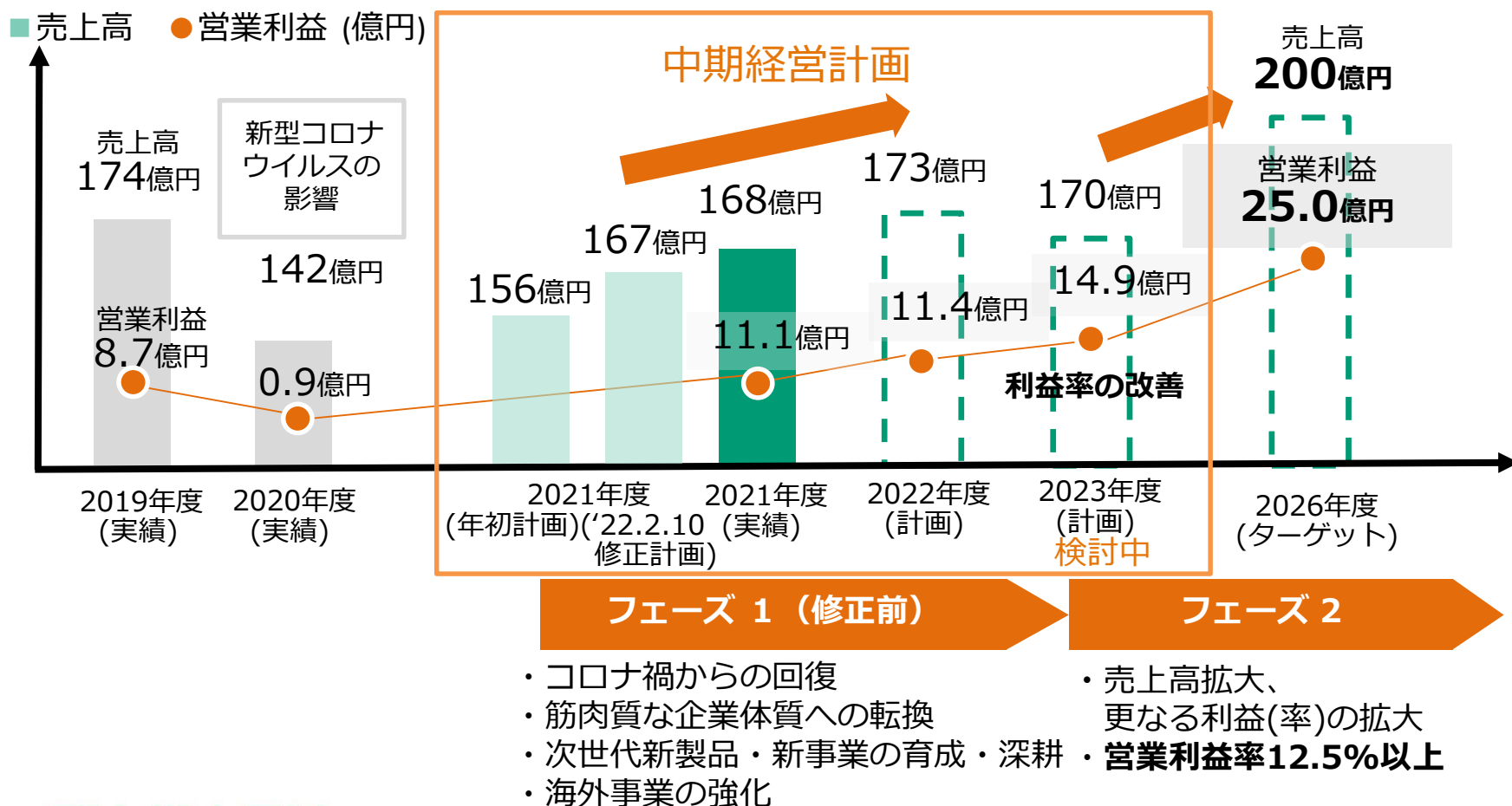
04

中期経営計画の進捗

中期経営計画（2021-2023年度）の位置づけ《連結》

【フェーズ1：2023年度】連結売上高：170億円、営業利益：14.9億円

【フェーズ2：2026年度】連結売上高：200億円、営業利益：25.0億円



中期経営計画（2021-2023年度）： 成長戦略・重要施策

～基本コンセプト～

筋肉質な企業体質への転換、中長期の成長基盤の構築

1 生産性向上・業務効率化

生産プロセスの改善、ITを活用した業務効率化により、利益が出せる少数精鋭による筋肉質な体質を目指す

- ・ 外部コンサルタントを活用した生産効率の改善
- ・ ITを活用した営業手法の導入
- ・ 基幹システム、グループウェア刷新等のITインフラ整備
- ・ 生産拠点の見直しによる拠点再編の検討
- ・ 自立型人財の育成

2 次世代自動車への対応・拡販

市場動向に即したソリューション提供による顧客の主要サプライヤーとしての地位確立

- ・ マーケティングによる選択と集中（モーター関連製品、電池関連製品は特に注力）
- ・ 販売/生産/研究開発部門の三位一体となった取り組み
- ・ 材料開発等による積極的な試作品の投入

3 新成長エンジンの創出

顧客の新たな価値創出につながるソリューション提供により、市場ニーズを先取りした高付加価値製品の開発

- ・ マーケティング部門と製品開発部門の融合
- ・ 大学や外部研究機関、取引先開発部門との共同開発などのオープンイノベーションの推進
- ・ M&A、業務提携の検討

4 海外事業の強化

アジア地域を中心とした海外売上高の拡大、管理機能の強化による海外子会社の経営安定化

- ・ ローカル人財の育成、オンラインを活用した販売活動
- ・ 海外製造拠点（タイ、インドネシア）の生産性向上、技術・技能の向上によるアセアン地域における競争力向上
- ・ 中国における販売拠点の拡大

1 生産性向上・業務効率化

生産効率の改善

- 2023年度の目標値として、製造原価率3.0%低減(2019年度比)に向け、機械稼働率・直接作業時間向上の改善活動を実施。主に、外注品の社内取込み(変動費で2%低減)等、収益率向上を目指す。
- 2021年度は、郡山製造所で製造原価率を2%低減し、一定の成果を上げた。
ただし、全社での効果に換算すると製造原価率の低減はまだ0.5%に留まる。
そのため、2022年度から他の製造拠点においても展開し、全社的な製造原価率の低減を目指す。
【製造原価率（全社）：2021年度：0.5%（実績） 2022年度：1.5% 2023年度：3.0%の低減目標】
(材料費、資材等の高騰は考慮せず)

対象事業所	具体的な施策スケジュール		
	2021年度（実績）	2022年度	2023年度
郡山製造所 【2019.2Q比】	製造原価 2.0%低減 ①機械稼働率 8.7%改善 ②直接作業時間 9.1%改善 ③リードタイム 25.0%短縮 ※①②はMHあたり	目標：製造原価率1.5%低減(全体) 標準時間の精度向上 ・標準時間-実績の分析 ・進捗の見える化 生産計画の精度向上 ・作業指示、予実管理	目標：製造原価率3.0%低減(全体) 改善の更なるスパイラルアップ ・改善余地を分析、全体での底上げ ・加工条件による加工時間短縮
熊本製造所	4Q分析	ムダ作業改善 ・3S活動 ・多台持ちの拡充 標準時間の設定 ・予実差の問題点抽出	標準時間の精度向上 ・標準時間-実績の分析 ・進捗の見える化
岡山製造所 名古屋工場 秦野工場	【研修・分析】 ・作業分析指導とリーダー教育 ・分析結果から改善活動内容決定	1Q分析 ムダ作業改善/標準時間の設定	生産計画の精度向上 ・作業指示、予実管理

2 次世代自動車への対応・拡販

市場動向に即したソリューション提供による顧客の主要サプライヤーとしての地位確立

- 販売/生産/研究開発部門の連携を強化した取り組みを継続的に実施

重点拡販分野	該当製品例	施策	施策スケジュール		
			2021年	2022年	2023年
モーター	モーターコア金型	① 市場分析 ② 顧客ニーズの集約 ③ 材種開発&拡充	→	→	→
車載電池	電池関連金型	① 市場分析 ② 専用生産ラインの立上げ ③ 海外市場への販売促進	→	→	→
マグネット	粉末成形金型	① 市場分析 ② 海外市場への販売促進	→	→	→

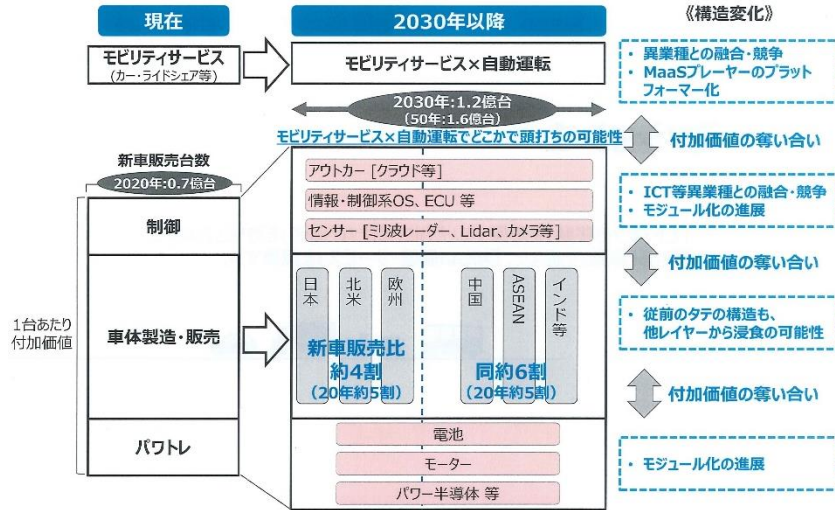
- 従来の顧客個別の最適化対応から、成長市場分野の専門営業と開発担当による集中マーケティングを実施
- 市場分野別のニーズを集約し、全体最適化した製品開発目標を設定
- 販売/生産/研究開発で役割に応じた施策を実行し、それらの連携強化により成長分野への取組みを加速

② 次世代自動車への対応・拡販 ～ 自動車産業構造の変化 ～

＜＜経済産業省の自動車政策＞＞

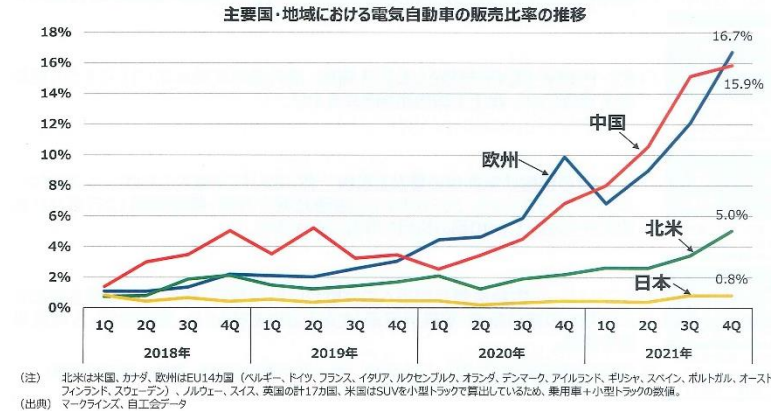
(経産省HPより抜粋)

産業構造の変化



主要国・地域における電気自動車の販売台数の推移

- **グローバル (特に欧州・中国) における電気自動車の販売台数は堅調に増加。** 新型コロナウイルスの影響を受けた優遇策強化も起因し、**特に欧州においては販売台数が急速に増加。**
- 一方、**日本では低水準が続いており、欧州や中国との差は拡大傾向。**



グリーン成長戦略

・自動車・蓄電池産業

電動化の推進：2035年までに乗用車の新車販売で電動車100%を実現

グリーンイノベーション基金

・次世代電池・モーター

上限1,510億円 ①航続距離を現在の2倍に ②コバルト回収率95%

・車載コンピューティング・シミュレーション技術の開発

上限420億円 自動運転等の高度情報処理に必要な省エネ型の車載コンピューティング技術 (センサー・ソフトウェア等の開発)

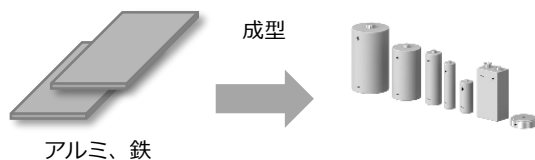
当社のコア技術が
活かせる成長分野に
経営資源を注力

- ◆ 電池分野
- ◆ モーター分野
- ◆ カメラ分野
(防犯、自動運転等)

② 次世代自動車への対応・拡販 ～ 成長分野製品への対応 ～

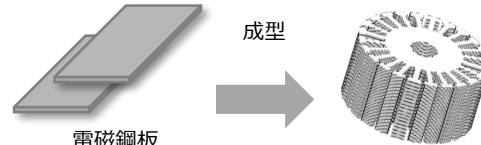
高精度・長寿命が求められ、当社が優位な製品分野で更なる拡販

二次電池



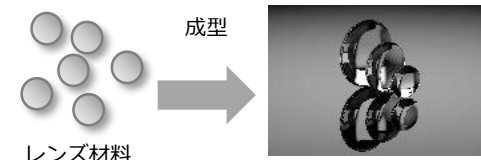
- ① 高精度な丸形状金型の加工技術
- ② 生産供給能力

モーターコア



- ① 精密プレス用金型で培った、顧客ニーズに沿った材料開発技術
- ② 従来材種と比べ、高い硬さと高靱性を両立した新材料を開発

ガラスレンズ

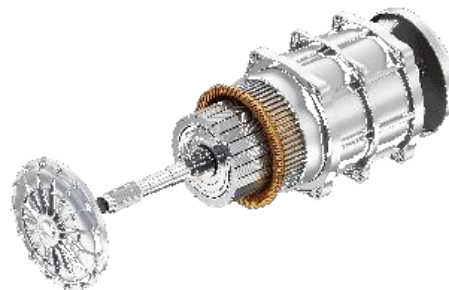


- ① 撮像ガラスレンズ用金型で培った、鏡面性、被加工性に優れた材料
- ② 特殊ガラスの特性に合わせた金型用新材料を開発

xEV用二次電池



モーター



車載カメラ



- 世界的なカーボンニュートラルへの対応が進み、自動車においては二次電池の需要が増加

- 自動車のEV化により、動力源として駆動用モーターの需要が増加

- 自動車のセンシング対応による車載レンズの増加や、コロナ禍による高画質の動画配信等、趣味への投資により、ガラスレンズの需要が増加

③ 新成長エンジンの創出 ～ 新製品開発・新技術開発 ～

新製品開発・新技術開発

モーターコア金型材料、医療用デバイス成形金型の加工、高熱膨張レンズ用金型材料を開発、販売開始

分 野	概 要	開発課題	開発目標	進捗状況	販売時期(計画)		
					2021年	2022年	2023年
次世代自動車	① モーターコア金型	① チッピング、摩耗	① 高靱性・高硬度	① 販売中 +新材料開発中	――→	――→	――→
	② 燃料電池用高精度金型	② 金型コスト低減	② FCセパレータ成形金型の超硬化	② 超硬：開発中 鋼：販売中	――→	――→	――→
	③ 電池部品成形金型	③ 金型精度、品質安定	③ 要求品質達成	③ 試作中		――→	――→
医療用デバイス	① 分析用デバイス成形型(マイクロ流路)	① 微細且つ高アスペクト比形状の要求	① 左記要求事項の達成	① 試作品評価中	――→	――→	――→
	② 医療用マイクロニードル成形金型	② 微細化するニードル形状への対応	② 左記要求事項の達成	② 試作品評価中	――→	――→	――→
環境・エネルギー	① CO ₂ 還元用触媒	① 最適な触媒の模索	① 左記触媒の開発	① 試作品評価中	――→	――→	――→
	② 脱タングステン合金の開発	② 高靱性化・大型化	② 超硬代替材料の開発	② 社内評価段階		――→	――→
その他	① 高熱膨張レンズ用金型	① (開発完了)	① (開発完了)	① 販売中	――→	――→	――→
	② 超硬3D造形素材	② 造形、焼結条件の確立	② 左記事項の達成	② 技術確立中	――→	――→	――→
	③ 混練工具	③ 軽量化・高靱性化	③ サーマットの特性改善	③ 試作品評価中	――→	――→	――→
	④ 新加工技術の研究	④ レーザー加工での微細化	④ 現状加工ではできない形状・精度への対応	④ 加工テスト中		――→	――→

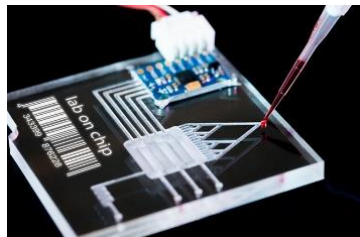
※赤字は今回修正部分、下線はオープンイノベーションを実施中

――→ 点線矢印：試作・開発中
――→ 実線矢印：販売中

3 新成長エンジンの創出 ～ 新製品開発・新技術開発 ～

● 医療・バイオ分野（マイクロ流路金型、マイクロニードルアレイ金型）

最新鋭設備と加工技術を融合させた業界トップレベルの形状精度



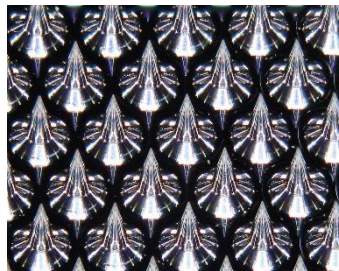
マイクロ流路チップ
(ガラス製)

形状精度

- 最小流路幅 50 μ m
- 流路ピッチ精度 1 μ m
- 表面粗さ Ra5nm

用途

- 分析用デバイス



マイクロニードル
アレイ金型

形状精度

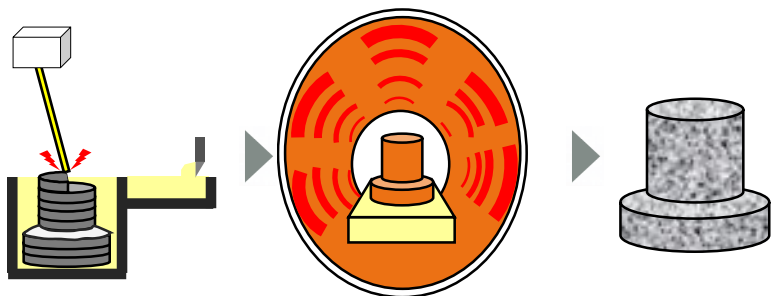
- 微細なニードル形状を多数配列
- ニードルピッチ精度 1 μ m
- 表面粗さ Ra10nm

用途

- ドラッグデリバリーシステム

● 3Dを活用した超合金の積層造形技術

間接造形法を中心に開発



積層造形

真空焼結 + HIP処理

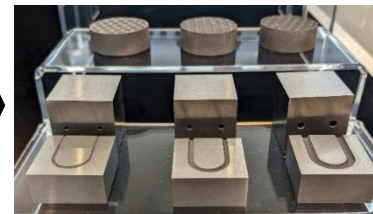
焼結素材

課題

- 当社専用の造形粉末の開発
- 生産ラインへの導入

期待効果

- 製造工程の簡略化
- 製品の均質化
- 環境配慮（切削屑の削減）



流路を有する積層造形体の
作製条件を確立

4 海外事業の強化

アジア地域を中心とした海外売上高の拡大

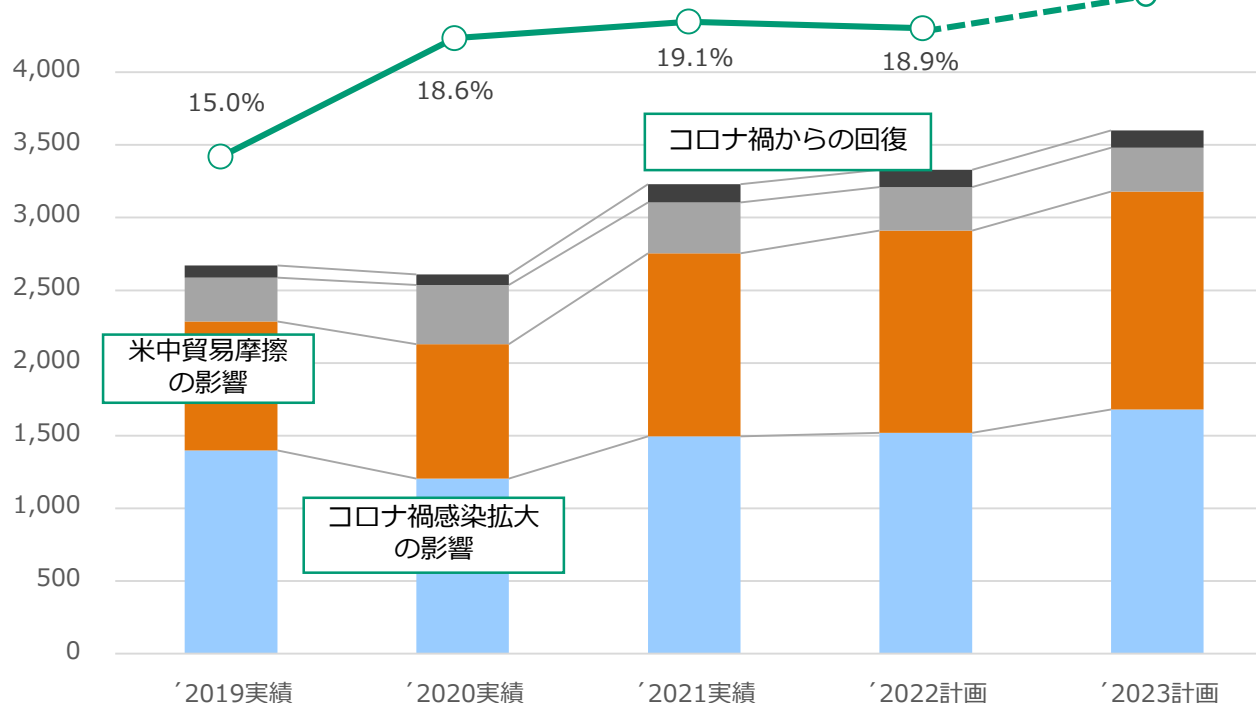
海外売上比率目標
20%以上

コロナ禍や米中貿易摩擦、半導体などの部品不足に加え、ウクライナ情勢や円安による資源の高騰などで世界経済がさらに先行き不透明な状況となっている。

こうした世界情勢に対して、当社が各地域で優位性を持つ市場への拡販に注力し、海外売上高の拡大を図る。

■ 東南アジア ■ 東アジア ■ 欧米 ■ その他 ○ 海外売上比率 (%)

(単位：百万円)



東アジア

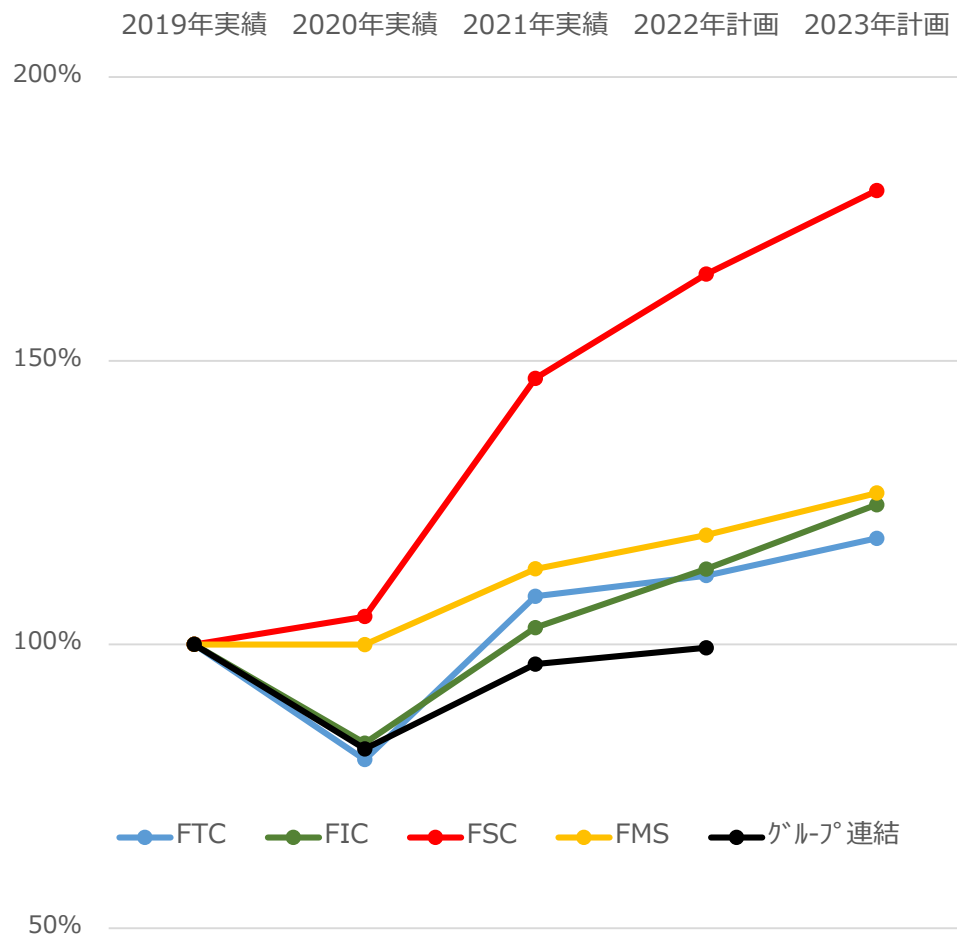
- ・ 中国及び台湾向け半導体/光学素子用超硬素材の拡販
- ・ 中国向けEV関連（電池/モーター/マグネット）金型/素材の拡販
- ・ 韓国向け半導体金型素材/電池金型の拡販

東南アジア

- ・ タイ/インドネシア向けで主要な自動車部品用金型の拡販と電気電子関連などへの新規分野開拓
- ・ マレーシア向け電子半導体関連工具や超硬素材の拡販
- ・ 販売子会社と協力しベトナムなど周辺国への拡販、輸出拡大

4 海外事業の強化

海外子会社の売上高伸び率（2019年実績 = 100として）



富士模具貿易（上海）有限公司（FSC）

- ・ 人員増強、人材育成
- ・ 広州拠点設立による拡販
- ・ オンラインや商社活用による拡販

Fujilloy Malaysia Sdn.Bhd.（FMS）

- ・ マレーシア国内のシェア確保
- ・ 拠点のない周辺国の拡販サポート（シンガポール、ベトナム、フィリピン）

PT.Fujilloy Indonesia（FIC）

- ・ 生産性及び技術/技能向上による競争力向上
- ・ インドネシア国内でのシェア拡大と新規拡販（自動車/電池関連など）

Fujilloy (Thailand) Co.Ltd.（FTC）

- ・ 生産性及び技術/技能向上による競争力向上（異型複雑品能力増強）
- ・ タイ国内でのシェア拡大と新規拡販（自動車/製罐関連など）

今後の新製品公開の予定

JIMTOF2022（日本国際工作機械見本市）を軸とした
FUJILLOY新製品の発表準備を進めています。

★インターモールド名古屋

- ・日 程：2022年7月6日(水)～9日(土)
- ・会 場：ポートメッセ名古屋

★ものづくりフェア

- ・日 程：2022年10月5日(水)～7日(金)
- ・会 場：マリンメッセ福岡

★JIMTOF2022（日本国際工作機械見本市）

- ・日 程：2022年11月8日(火)～13日(日)
- ・会 場：東京ビッグサイト
- ・出展予定品：モーターコア金型用新材種(初公開)
 - ：特殊用途用新材種(初公開)
 - ：医療関連金型
 - ：各種金型(電池・缶器・レンズ・自動車部品、他)

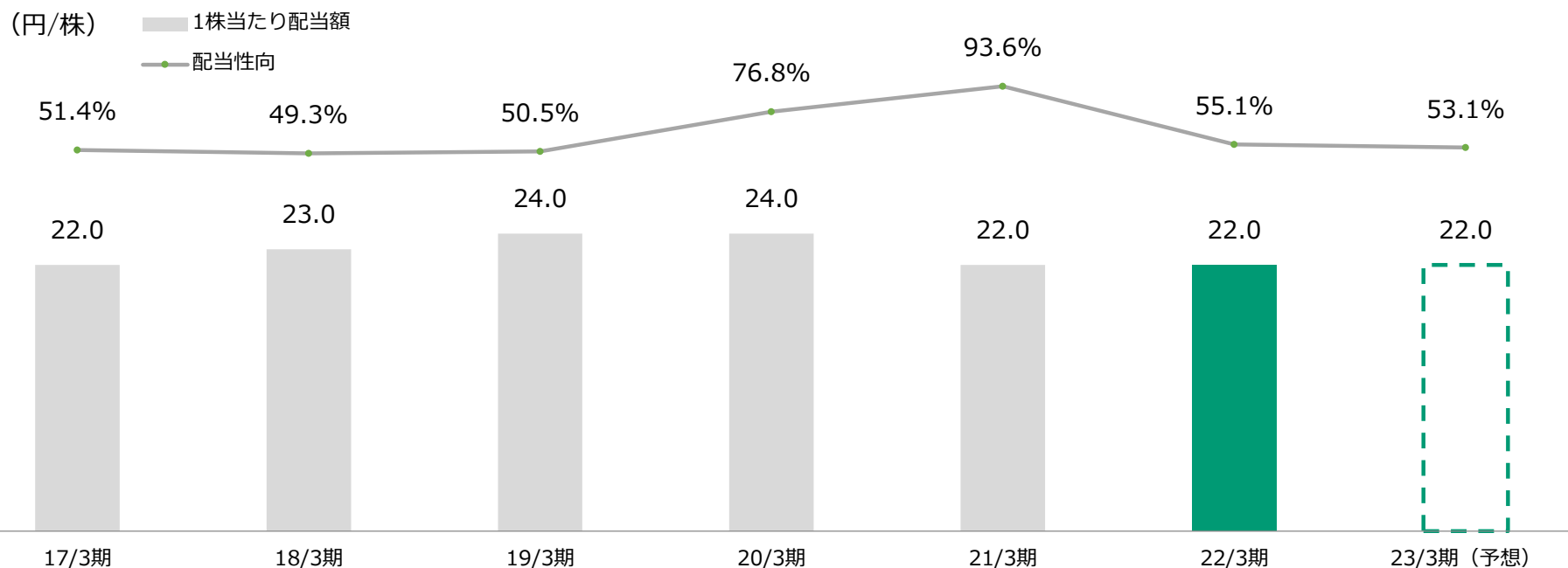
05

株主還元・配当

株主還元・配当

2022年3月期は、当初計画の21円から**22円に復配**
今後も株主の皆さまに対して、**安定した配当を継続**

年間配当金
22円



06

ESGの取り組み

ESGの取り組み

当社グループは、「事業を通じて広く社会に貢献し、幸せな人を育てる」という企業理念に基づき、環境負荷軽減や地域との共生など持続可能な社会の実現に向けた企業統治や諸活動を行っています。

Environment 環境

- 環境方針の策定・開示
- 環境マネジメントシステムの認証取得（2004年5月にISO14001認証を取得し、継続登録）
による環境負荷低減への社内意識啓発と持続的な改善
- 環境調和型製品の提供
（日本機械工具工業会による環境調和認定製品7種類）
- 環境配慮製品への切り替え
（FSC認証紙やベジタブルインキなど）
- 社用車のエコカーへの切り替え
（2022年3月時点で60%切り替え済み）
- 環境関連法令順守の維持・継続（排水、排気、騒音、廃棄物、化学物質等）

Social 社会

- 地域社会との共生
（献血活動の継続、おおたオープンファクトリー、小学校への出張授業）
- 福祉施設への寄付・慰問
- 品質マネジメントシステム認証取得（2002年11月にISO9001認証取得し、継続登録）
による顧客満足度向上の持続的な改善
- 障がい者雇用の環境整備（障がい者農園を活用した野菜生産）

Governance 統治

- 企業理念、大切にする価値観、長期ビジョンの策定と公表
- コンプライアンス・リスクマネジメント対応（2か月に1回、コロナ対応含め対策会議を実施）
- コーポレート・ガバナンス報告書を適時更新し開示
- BCP(事業継続計画)の策定と定期的な見直し
- 指名・報酬委員会の設置
- 独立社外取締役を3分の1以上選任（※2022年6月開催の定時株主総会で選任予定）

07

参考資料

中長期的成長に向けた研究開発の方向性

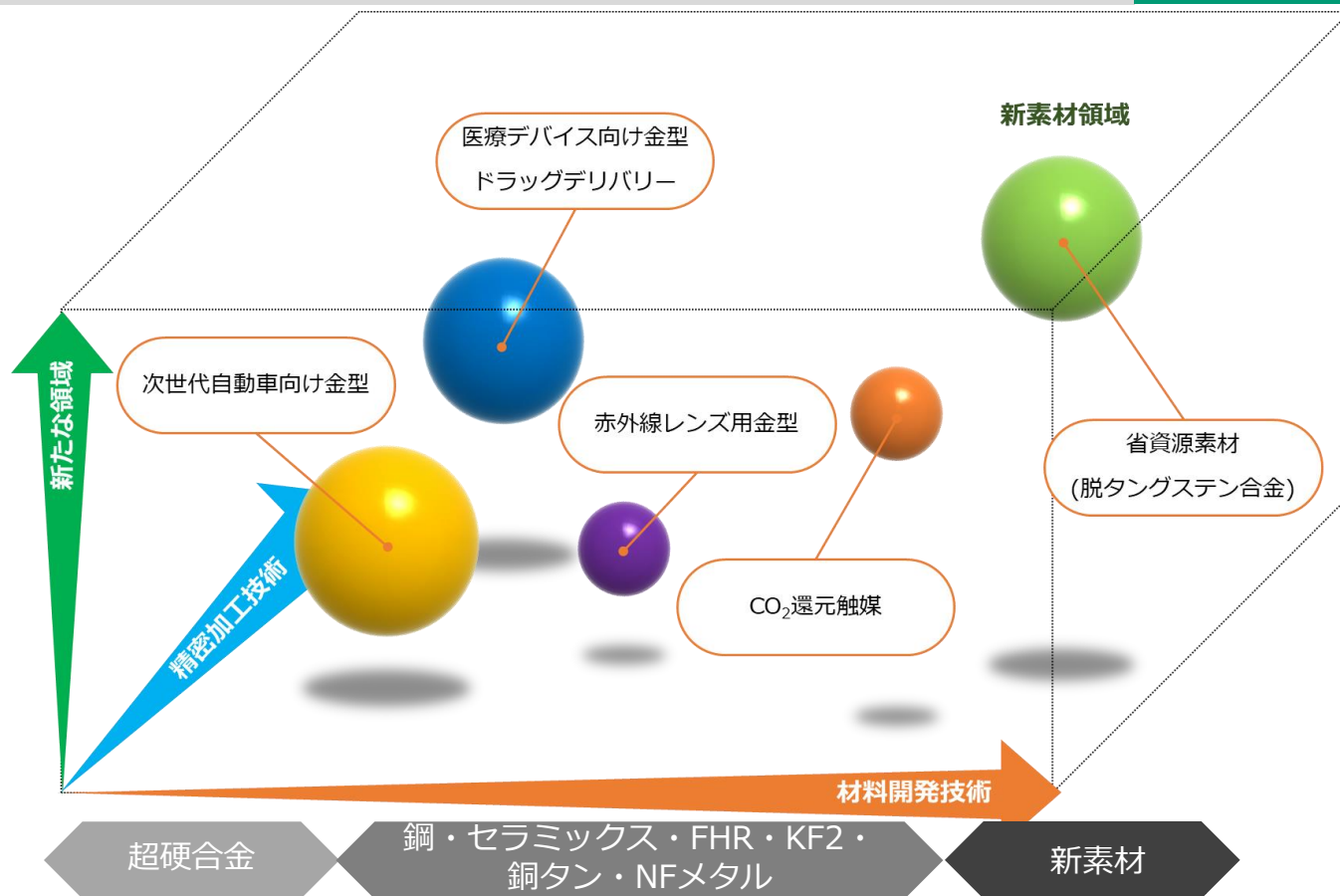
粉末冶金技術

超硬合金に限定しない、新材料開発の加速

超精密加工技術

現行技術の次代の先端へ：新鋭設備研究と工法の最適化

新成長エンジンの創出

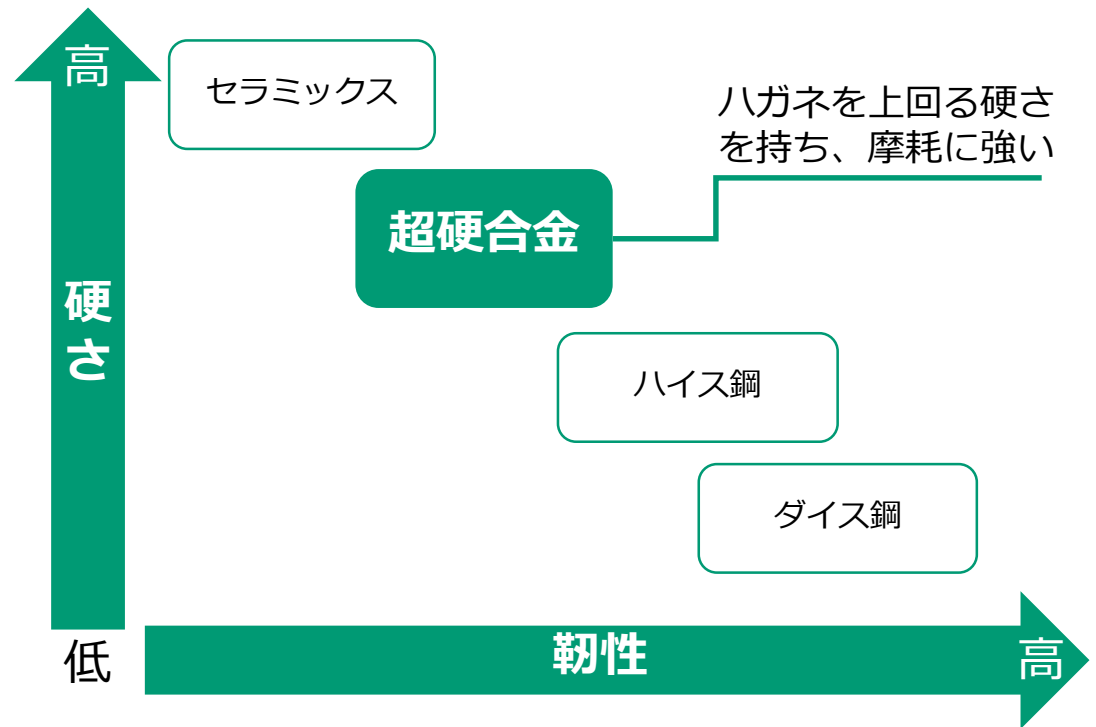
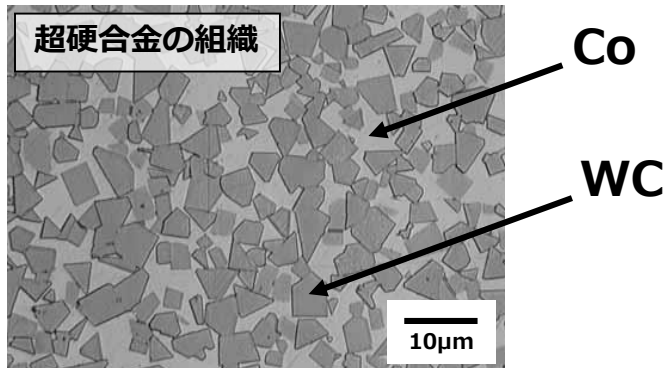


超硬合金とは

非常に硬く高耐熱性のWC、TiC、TaCなどを、靱性の大きいCoまたはNiでセメントした合金。

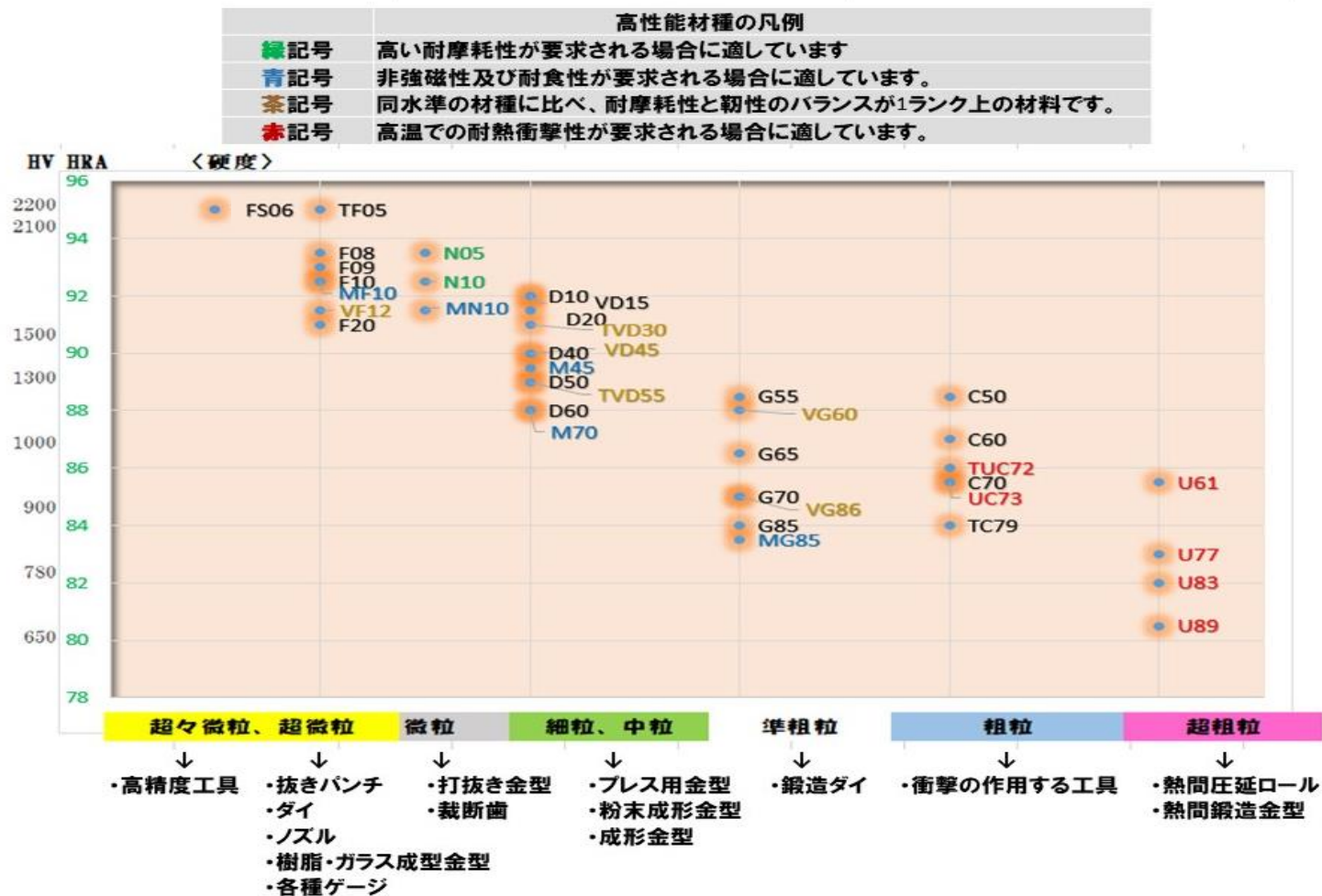
工業生産される金属材料の中で優れた**硬さ**と**圧縮強さ**をもつ。

粉末冶金法で製造される。



当社超硬合金の特徴

富士ダイスが製造する超硬合金の材種特性のマッピング（WC粒度×硬さ）を示します。
超々微粒から中粒、超粗粒までお客様の用途・目的に最適な粒子径や硬さの材種を提供しています。



代表的な製品例

引抜・押出・圧延加工をする工具

輸送用機械、建築材料やインフラ関連の設備等へ使用

当社製品



ダイス・プラグ



ロール

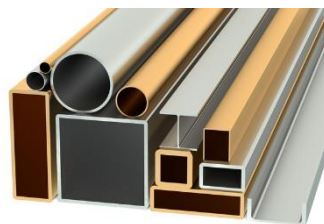
成形部材



パイプ



線材



異形管

最終製品例



タイヤ・エアコン・
鉄道架線他



インフラ設備

代表的な製品例

飲料缶・一般食缶を製造する工具・金型

アルコール飲料や清涼飲料等の飲料缶を作る金型

光学素子を製造する金型

一眼レフ・通信用・監視カメラのレンズを生産する金型

当社製品



製缶工具

最終製品例



飲料缶・一般食缶

当社製品



光学素子成形用金型

最終製品例



スマートフォンレンズ カメラレンズ



監視カメラ

代表的な製品例

鍛造用工具・金型

二輪車や四輪車、各種製造機械等の部品を作る金型

高圧工具

人工ダイヤモンドの製造、新たな素材の開発、地球の内部環境研究に用いる工具

当社製品



鍛造金型

最終製品例



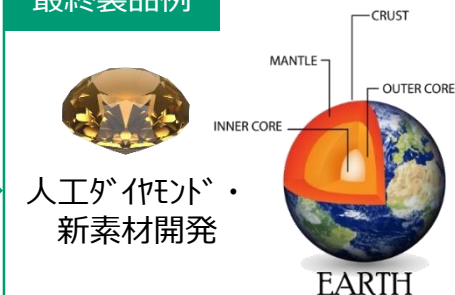
自動車・各種機械用部品

当社製品



高圧工具

最終製品例



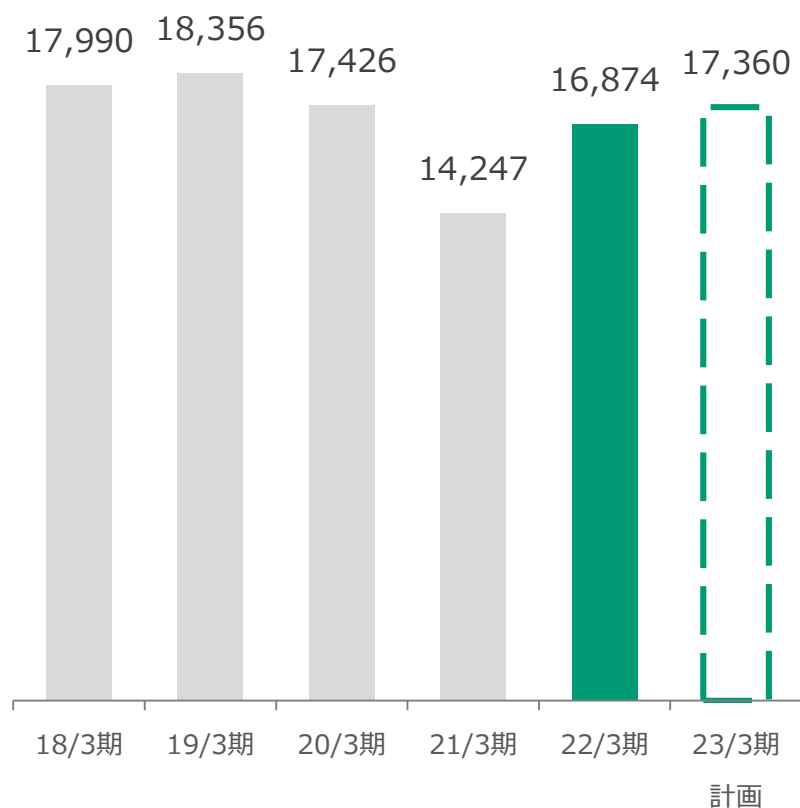
人工ダイヤモンド・
新素材開発

地球物理学研究

業績の推移 1/3

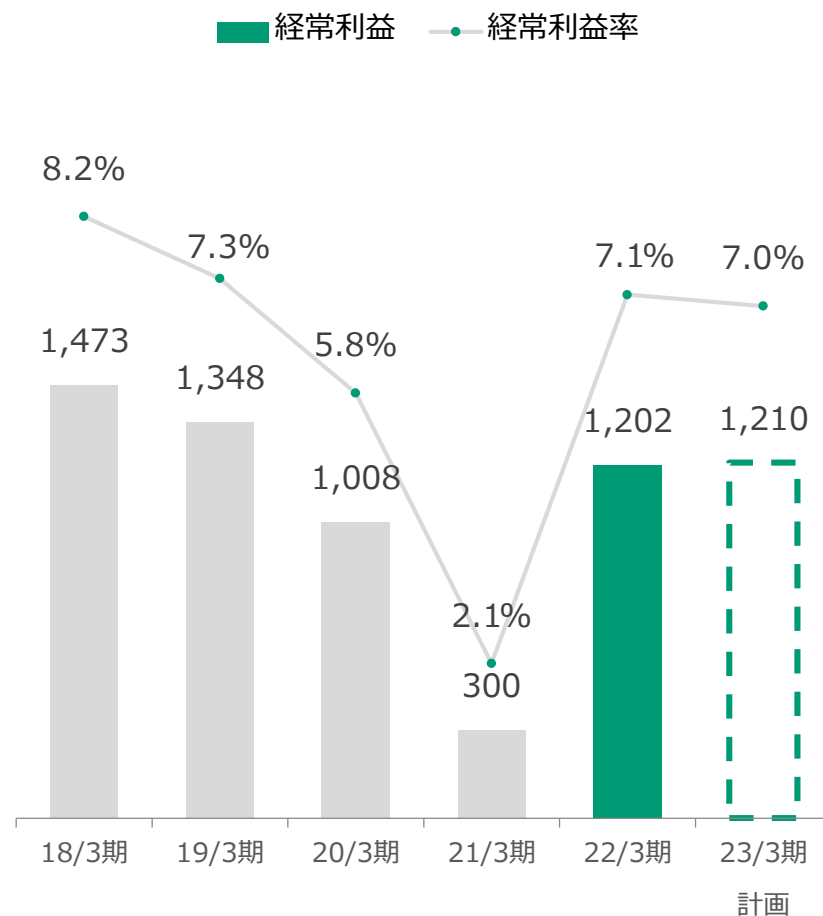
売上高

(百万円)



経常利益

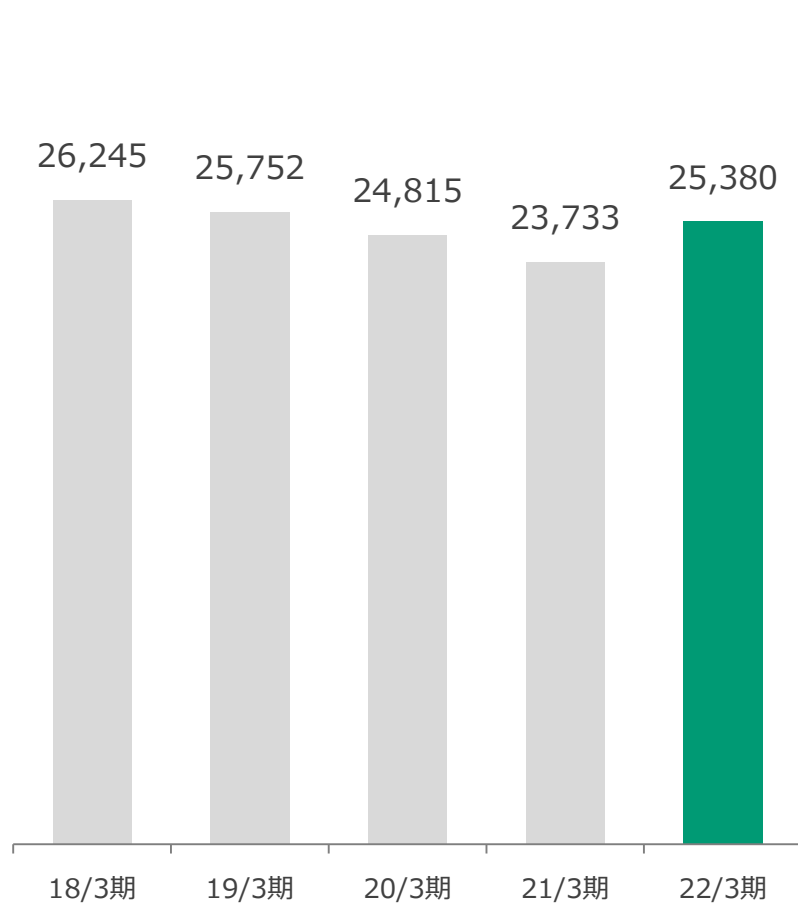
(百万円)



業績の推移 2/3

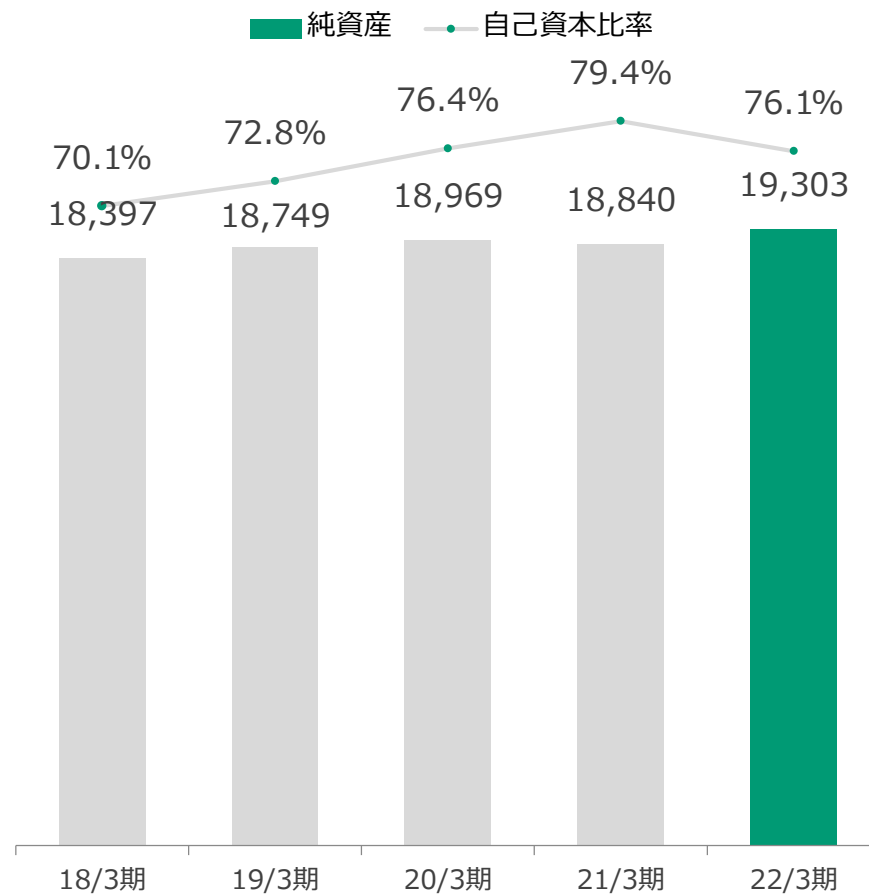
総資産

(百万円)



純資産

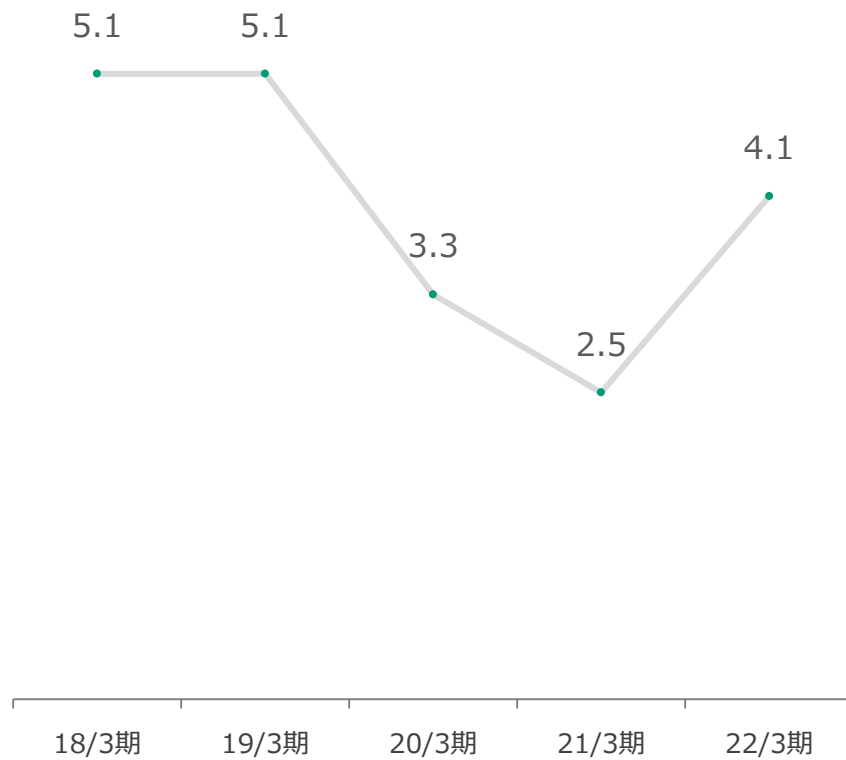
(百万円)



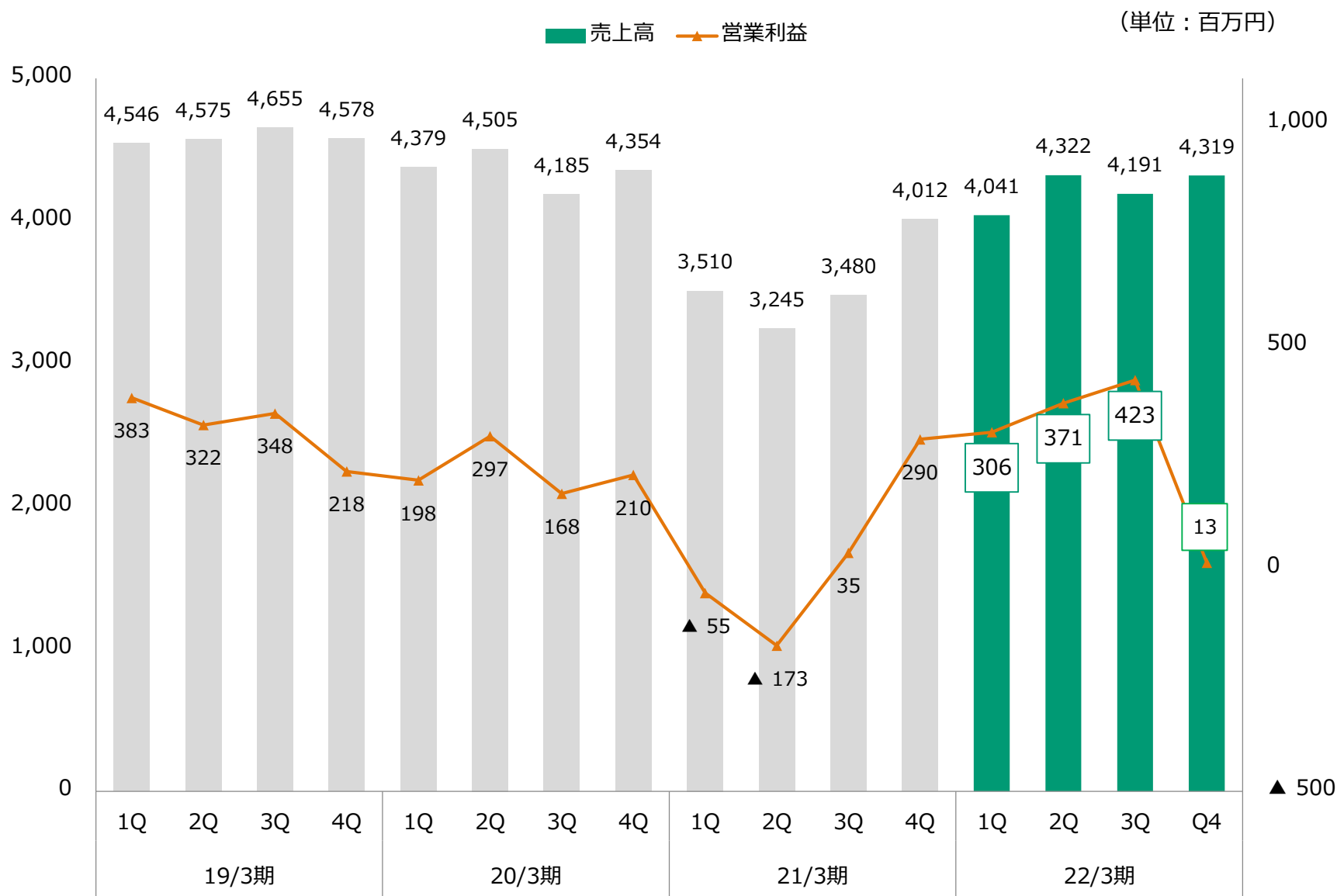
業績の推移 3/3

ROE

(%)



連結四半期業績推移



● 金型新聞
2021年10月10日

順応力を持った企業目指す

経営効率を高め、
事業領域を拡大



くほい・つねき
1958年生まれ、東京都出身。81年芝浦工業
大学卒業後、富士ダイス入社。2014年取締
役、18年常務、20年副社長、21年社長に就任し、
現在に至る。国内の各
製造拠点で生産技術な
どに従事した後、生産
本部長や営業本部長な
どを務めた。趣味はサ
イクリング。座右の銘
は「着眼大局・着手小
局」。

今年4月、ダイスなど超硬合金製の耐摩耗工具や金型を手掛ける富士ダイス（東京都大田区、03・3760・7161）の社長に就任した。自動車産業の大変革など同社を取り巻く事業環境が加速的に変化する中、「変化に対して順応力を持った企業を目指していく」と抱負を語る。

次世代自動車への転換。生活様式の変化、国際秩序の不安定化などによって、同社の顧客も大きく変化している。「持続的な成長のためには、従来の考え方・固執することなく、事業領域を広げていかなければならぬ」と変革の重要性を強調す。

富士ダイス 久保井 恒之社長に聞く

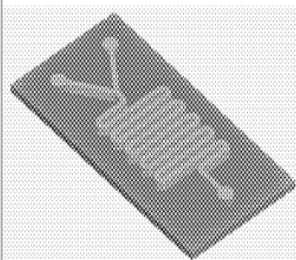
昨年には新規分野を開拓する営業部隊を新設。営業ルマを定めず、将来を見据えた企画や提案に注力させることで、「新しい成長エンジン」を創出していくという自動車分野ではセンサーや電池、磁性材料など次世代自動車に関連する部品の取

り込みを狙う。また、自動車以外でもマイクロ流路やガラス成形品などの医療関連を始め、様々な分野への拡販を目指す。加えて、「国内の事業領域を駆けつけ、海外事業も強化していきたい」とアジア地域を中心とした海外事業の売上拡大も視野に入れる。中国の販路拠点を増やす他、タイとインドネシアにある海外製造拠点の生産能力強化などを計画している。また、変化に対応できる企業体質への転換に取り組む。製造から開発、営業と幅広い部門を務めてきた自身の経験を生かし、「無駄を省き、筋肉質な企業体質に変革させていきたい」と意気込む。生産面では外部コンサルタントを活用した生産現場の改善や生産設備の再編などを検討している。その他、IoTを活用した営業手法の導入や業務効率の改善も進めていく考えだ。

● 日刊工業新聞
2022年2月28日

離型容易なガラス成形金型

富士ダイス マイクロ流路活用 医療用分析デバイス向け



マイクロ流路を用いた分析デバイスは、ガラスなどの材料上に形成した微細な流路を利用して分析などを行う。臨床現場即時検査（POCT）や血液検査など医療や化学分野で普及が進む。富士ダイスでは流路配列のピッチ精度100μm（マイクロは100万分の1）、流路断面の形状精度5μmを実現できる。また、平板上に微細なマイクロ流路を用いた分析デバイスなどのガラスなどの材料上に形成した微細な流路を利用して分析を行う（マイクロ流路のイメージ）。

な確実性を施したマイクロウェルプレート型の金型の加工も可能。一方、ガラスは高温で成形するため、金型のコア材料との熱膨張係数差で冷却時の割れや金型から取り外せないなどの問題が発生していた。同社は特殊ガラスの成形金型素材として開発した熱膨張係数の高い材料技術に応用し、こうした問題を解決した。同社は事業領域の拡大を目指しており、マーケティング部門を新設。同部門では売り上げ目標を設けず、次の収益の柱となる事業を模索し、新製品・新事業の育成を目指している。今回の分析デバイス向け金型の提案もこの一環となる。

● 熊本日日新聞
2022年4月21日



富士ダイス熊本南関町に新工場
EV需要増対応
産業用工具・金型製造販売の富士ダイス（東京）は南関町の熊本製造所に、合金素材をつくるための冶金棟を新設する。20日、県庁で同町と立地協定を結んだ。既存の冶金棟が老朽化していることや、電気自動車（EV）の部品向け金型の需要が増えていることから、新棟建設が必要に対応する。

久保井恒之社長は「電気自動車のモーターやバッテリー向けの需要が増えており、付加価値の高い製品を供給していきたい」と述べた。半導体関連の金型や素材も製造しており、台湾積体電路製造（TSMC）が菊陽町に工場を新設することについて「今後、半導体関連の需要増も期待している」と話した。

ニュース記事は、スマートフォンやタブレット端末で右QRコードからご覧になれます。



免責事項について

当資料は、富士ダイス株式会社の現状をご理解いただくことを目的として、作成したものです。当資料に記載した内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成しており、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

また、当資料には見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものがあり、当資料に記述されている内容とは異なる結果を生ずる不確実性（市場、金利、為替の変動といった国内外の経済状況等）が含まれております。今後、新たな情報や出来事等が発生した場合、当社は本資料の更新・修正を行う義務を負うものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

尚、情報の掲載には細心の注意を払っておりますが、情報の誤りや改ざん、データのダウンロード等で被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。